

210人が新たな門出

1月13日松尾地区で210人の新成人が成人式を迎えた。公民館ホールで行われた式典では、実行委員が工夫を凝らし、「あのころから今日まで」と題し制作したスライドショーを上映した。懐かしさに皆終始笑顔だった。



発行所
飯田市松尾公民館
編集人
松尾公民館広報委員会
印刷：龍共印刷(株)

成人式実行委員を終えて

松原 利菜 (新井区)

始まりは9月初め。実行委員募集の手紙を基に集まった最初の会議。そこにいたのは私と宮澤知紘くんの2人に、公民館主事の横山さんだけ。人が増える見込みといえは当日は欠席ながら一緒にやろうといっていた岡元佐喜恵さんだけ。その少人数に衝撃を覚えたと共にこれから始まる計画に期待と楽しみを感じた。それから宮澤知紘くんを委員長に、副委員長を私が務めさせていただき、3人と横山さんの実行委員活動は始まった。実行委員の仕事は定期的集まり成人式の計画を行ったり、松尾のいいところ再発見というところでマインナックさんを見学させていただいたりと、内容は様々であったがどれも松尾地区に焦点をあて、地区の為に

なる活動という点で一致していた。長きに渡る計画をし、ついに迎えた成人式。快晴のもと行われた人生の晴れ舞台。どこもかしこも朝から落ち着かない雰囲気だった。式の時間が近づくと、華やかに飾り大人びた姿の女性や、スーツ袴できりつと決めた男性が公民館へと集まり、澄んだ静けさをもつ

ていたその場は、一気に華やかさと活気のある場へと変貌した。中学以来の再会を果たす者もあり、みなその懐かしさと変化に心を躍らせ話に花を咲かせた。それから写真撮影に厳かな祝辞。小学生時代から今までの歩みを映し出したスライドショー。そして富くじなどを行い大いに盛り上がった祝賀会。成人式は無事成功を収め、喜びと感謝の声をもいたいただいた。怒涛の1日が終わった後日。計

飯田市公民館大会

今、公民館を問い直す

2月17日午後、飯田市公民館にて第50回記念飯田市公民館大会が開催された。会場は500人の参加者が溢れんばかりで、追加席も用意されるほどであった。開会行事では永年公民館活動に貢献した人々の授賞式があり、松尾では丸山正

敏さん(久井区)が表彰され謝辞を述べた。またムトス飯田賞では「南信州竹宵の会」などがその貢献を称えられた。続いて飯田市公民館の歩みが放映され、昔懐かしい映像と飯田市の、旺盛で全国でも先駆的な公民館活動

館長つらみ

こんにちは角田です

ラジオから流れる軽快な音楽と絶妙な語り口の「小沢昭一」の小沢昭一「このころは、きつと誰も慣れ親しんだ番組でしょう。残念ながら小沢昭一氏が亡くなった昨年未だに番組は終了しましたが、放送回数1万回を超える長寿番組でした。

だいが昔に、私は小沢氏の講演会で印象深い話を聴きました。氏の友人AさんとBさんの話です。

「仕事のできるAさんは、出世して富と名声を手に入れた。片やBさんは出世することなく富や名声とは縁遠かったが、趣味の絵画だけはコツコツと続けていた。やがて2人は定年を迎え、誰もがAさんこそ定年後も生き生きと充実して過ごすと信じていた。しかし、仕事以外に興味を持たずに生きて

心の年金

きたAさんは次第に目の輝きを失っていったのである。一方Bさんは、趣味の絵画で個展を開くほどの実力者となり、目は生き生きと輝きを増していった。仕事以外で大切に続けていた何か、定年後の自分の人生を充実したものにしていく。それはまさしく『心の年金』である」という話でした。自分にとっての心の年金とは何であるのか、考えてみたいものです。

☆ ☆ ☆ ☆ ☆

俳句を愛した小沢昭一氏の句を2つほど。

あと3日

生きて香典調べたし

出来すぎと

思うわが世の春惜しむ



教育功労者表彰・丸山正敏さん

その後は参加者が関心のある6つの分科会に分かれ、各地区の特徴ある公民館活動、分館活動の事例の発表がなされた。住民自治を育む公民館活動の新たな挑戦に向けて、参加者各々が見識を深める機会となった。



飯田市は2007年環境文化都市宣言をし2009年環境モデル都市の認定を受けた▼太陽

面が実った達成感と、支えてくださった様々な方々への感謝の思いが溢れた。成人式は二十歳になったものを祝う式であると共に20歳まで育てていただいたことを親へ感謝をする日と聞く。それと共に今回委員に携わったことで、20歳まで見守ってくれた地域や、地域を支える公民館にも感謝し貢献をしたいと思えた。このような体験ができた喜びをひしひしと感じている。

光市民共同発電はもうろうん、森林豊かな地域の特性を生かし、地場の間伐材を木質ペレットとして地元の公共施設や一般住宅のストーブの燃料としてエネルギーの地域内循環を促している。他にも民間と協力して給食センターや保育園などの植物性たんぱら油を回収してバイオ燃料を作り、数台の公共車両を動かしている▼市は循環型地域社会の推進やCO2削減を呼びかけているが、私たち住民はそれほど気に掛けていない。しかし、自分の住む地域で買い物をしたり、無駄なアイドリングをやめたり、必要以上に室内の温度を高く設定しないことなど、個人の自覚次第でできることはたくさんある▼飯田市はもちろ

松尾の人口
男子 6,101人
女子 6,818人
計 12,919人
世帯数 4,724世帯
2月末現在

松尾地区 文化祭 公民館まさに文化の殿堂に

2月2・3日に松尾公民館で松尾文化祭が開催された。毎年、文化活動の成果が一堂に集まる文化祭、今年も大勢の来場者で賑わい、大盛況の2日間となった。今年で3回目の立川談四楼落語会は会場が満員となる人気ぶり。芸能発表会は27団体が出演。どの団体も多彩な演目を披露し、会場を沸かせた。



ウアリケノウアリケ
(ピリラニ飯田教室)



狼たちの遠吠え(悠風会)



麦屋節(男踊り教室)



どんどこあばれ獅子(松尾東保育園)

松尾に生きる

久井区 伝統と楽しさを継ぐ 久盛芸能保存会



2月3日松尾公民館主催の松尾地区文化祭において久盛芸能保存会21人によりお囃子が披露された。久井伝統のお囃子は囃子屋台である。木製屋台に乗った奏者が曲を演奏しながら移動、所望を受け停車し、稚児踊りとともに「久盛」という曲を披露する。お囃子は毎年元旦の鳩ヶ嶺八幡宮奉納や夏の納涼祭隔年の芸能祭での演奏があるため、練習と披露の機会が多い。しかし屋台を出すには人出が多く要る。演者ほか屋台の引廻し、警護など少なくとも50人

以上は必要だ。いつでも出せるといものではない。5年10年15年と間隔が空くときもある。久井のような少数人数区では屋台を出す以前にお囃子の後継者不足が深刻だ。これは久井に限らない。4月には松尾郷土芸能まつりが開催される。久井でも囃子屋台が7年ぶりに出る。各地区からも太鼓、獅子、囃子屋台が出る。子供たちも参加し見物するだろう。大人たちが大いに楽しみ子供たちとともに盛り上がるのが、後継者作りの第一歩になるはずだ。

まちづくり委員会 宮下吉彰会長



天候にも恵まれ、大勢の皆さんが参加されました。分館展示は各分館よく工夫されていました。芸能発表会には私自身も出演させていただきました。満員の会場で、皆さん日頃の練習の成果を存分に発揮されていました。自転車シミュレーター体験や地震体験車マグネーターなど、新たな企画もある一方で、2年ぶりに立川談四楼落語会も開催され、大いに笑わせてもらいました。準備、運営に携わってくれたスタッフの皆さんのがんばりがけしていきたいと思えます。

丸山基治文化委員長



多数のご来場ありがとうございました。両日とも天候に恵まれ盛大に開催することができました。また、今年も多くのご来場者、地域の皆さんのご協力を得ることができ、公民館活動の枠を越える行事として文化祭が進化していることを実感できました。「来年度こんな企画をやってみたら」「文化祭に参加したい」という希望がありましたら公民館までご一報下さい。より一層、子供からお年寄りまでが「来て良かった」「楽しかった」と言ってもらえるような企画と運営を心がけていきたいと思えます。

小学生の水引体験学習



水引細工っておもしろい

2月20日、松尾小学校4年生全児童130人が、松尾公民館で飯田地方の主要な伝統工芸である水引細工を体験した。この体験学習は「結いのまち飯田」の名のもと、水引のもつ「結ぶ」という意味を学習し、「水引工芸を誇れる子どもたちを育てたい」という願いで毎年開催されている。当日は、飯田水引協同組合代表の小國慎治さんをはじめ7人の講師の指導のもと、子どもたちは6つのグループに分かれて、「淡路結び」のしおりを製作した。まず、20色の水引から好きな色を選んで水引を結び、はさみやのりを使いオリジナルのしおりを完成させた。水引細工を初めて体験した子どもたちからは「楽しかった」「おもしろかった」「水引の色がきれいだ」「簡単にできた」「水引クラブでもやっていたことある」などの声が聞かれた。中には「水引方を語っていた。今年10月に行われる『飯田カネト松尾公演』に向けて一緒に歌う団員を募集している。詳しくは飯田カネト事務局。又は飯田カネトで検索。事務局長 渡邊 美津子 090-5434-2688



2月2日松尾公民館ホールで文化祭企画「立川談四 落語会」が開催され、200人を超える来場者で会場は埋め尽くされた。

談四楼 話芸研える

作家としても活躍している。松尾地区文化祭にも平成22年から登場し、今回で3回目の公演。区民とのなじみも深い。前座の立川寸志による『手紙無筆』の後を受け登場。1席目は、談志師匠にまつわ



骨密度を測って自分の体を知ろう



自転車シミュレーター体験(交通安全部) ハイテクシミュレーターで交通ルールを勉強中



分館展示コーナー 今年、上溝・寺所・明・清水・八幡町・代田の6地区



親子でミニSLで楽しもう



地震体験車マグニー号で震度7を体験



マグニー号

- ▼ ふれあいこども広場
- ミニSLに乗ろう・消防車と遊ぼう・おもしろ科学教室の分光器作り
- ▼ 無料試食コーナー
- 豚汁・お汁粉・手作り漬物・市田柿料理・ポップコーン・高野豆腐のドーナツ
- ▼ 体験コーナー
- 自転車シミュレーター・地震体験車マグニー号・AED講習会・骨密度と体組成測定
- ▼ 無償提供コーナー
- チャイルドシート・古本市



おもしろ科学教室(育成会・松尾サイエンス) 「分光器を作ろう」キラキラ、光にはいろんな色があるんだ

パーフェクト達成 おめでとう!

昨年度の文化祭「平成24年を予想しよう」のパーフェクト達成の皆さん

- 瀧川 夏音さん(明)
- 平栗 俊之さん(城)
- 代田江実里さん(明)
- 平栗 隆夫さん(清水)
- 今村 宏子さん(明)
- 後藤多世子さん(明)

来年も、こうご期待!



ここに僕の写真が!!



チャイルドシート無償提供には今年も長蛇の列が...



豚汁は今年も大人気

まけるな農園 冬の収穫祭 きな粉入りケーキに挑戦

2月23日、平成24年度の「まけるな農園」冬の収穫祭と終わりの会が、松尾公民館で行われた。今回は昨年12月に収穫した大豆を使って菓子・料理作りを楽しむことを目的に行なった。開始時刻の午後1時前から総務企画委員が調理室で下ごしらえに入り、調理メニューは大豆チョコ・みたらしダンゴ・煮大豆を炒り、昔ながらの石臼できな粉を挽く。子供たちは交替で根気良く挽いたが、小2の鈴木航貴君は「重かった」との感想。ケーキ作りは委員の細やかな指導により、小学生でも顔負けの香ばしい立派なケーキが出来上がった。最後に和室で自分たちの料理に舌鼓を打ち、委員長や公民館長の締めくくりに、この1年を振り返った。



委員会では農業体験・食育等を目的に、平成25年度も同農園を開く。

ふれあいひろば

▼日中文化交流会 2月24日(日)常盤台集会所で日中文化交流会が開催された。この交流会は、中国と日本のそれぞれの出身者が1つのことを一緒に行うことで、お互いを知り、意見交換できる場を作ることを目的に毎年開催されている。今年、朝から雪も降る悪天候の中ではあったが、もちつき体験と中国の一般的な家庭料理の茶蛋・麻婆豆腐・おでんを作り、一緒に食べながら、和やかな雰囲気の中、懇親を行い交流を深めていた。

寺所区 達人シリーズ 将棋どりのインの達人から学ぶ

寺所区では毎年、寺所に住む達人を講師に「寺所達人シリーズ」と称した講座を行っている。

1月20日午前は、清水光雄さん、青山良一さんを講師に将棋教室が開催された。

小学生から高齢者、レベルも初心者からベテランまで、十数人の参加者が集い、和やかな雰囲気の中で雑談を交えながら講師の個別指導がなされた。

清水さんは「将棋は相手の手を読み何手の中から最善の策を考え攻めること

が魅力」と話す。また青山さんは清水さんの父親から指導を受け、本格的に取り組み現在に至るとのこと。

「将棋を通じて人々が世代を超えて繋がっていくと嬉しい」と語った。

午後からはヴァンヴァンのシニアソムリエ麦島泰彦さんのワイン講座(今年で5年目)が開かれた。この講座は大人気で参加者は33人、リピーターとして参加している人も多かった。

麦島さんからはワインの熟成に絡めて、保管や美味

しい飲み方の専門分野にまで踏み込んだ講義があり、今年のおすすめワイン7種の紹介がなされた。

口にすることのない銘柄の紹介が楽しく、また何よりそれを飲むことが魅力である。用意されたワインの中でもマンゴー味のワイン



明区 しめ縄奉納

本年度 鳩ヶ嶺八幡宮秋季例大祭の年番にあたる明区では、12月9日明区防災センターにて本殿のしめ縄づくりを行った。

このしめ縄づくりに先立ち、中心となる中年会や伍長会は、秋の旅行で石清水八幡宮にバス2台で出かけ、注連縄を見学して来た。その結果、従来作られていた太さよりも細い「こぼろ形」で作成することに決まった。

前日にしめ縄下ろしを行った後、3本の縄のうち1本を作成し、それを基に藁スグリや各藁束の重さを量り準備を行った。

当日は区民50人が参加。先頭には300名の藁を4束、あとは250名の藁束を並べていき、全長11mの注連縄を、前日の分と合わせ合計3本完成させた。

奉納時は、みぞれが降りだす天候となつてしまったが、次年度の年番、清水区からの見学者12人も見守る中、無事注連縄の奉納が行われた。

塩澤泰和区長は、「藁は、丈の長い良いものができた。準備は大変だったが、ここまで出来上がってほつとしていた」と話していた。

杵と臼は毎年近くの農家などから借りていたが、今年も参加人数も増える中、今年は小学生をはじめ親子連れや高齢者など180人ほどの参加者があり、賑々しく開催された。

八幡町区 世代を越えて 和気あいあい

は大人気で、皆ほろ酔い加減でワイン談義に花が咲き親交を深めた。

八幡町区民の交流・活性化を目的にお正月気分を満喫してもらおうと、杵と臼を使った餅つき・芋煮会が12月2日(日)、八幡町区第2公会堂で行われた。このイベント企画は元分館長の清水勝利さんの発案で実施された。今回で12回目を数える。

2月3日、上溝ボウリング大会がアストロポウルにて、約70人が参加して行われた。8回目となる今回の大会は、幼児から年配者まで男女を問わず幅広い年齢層が参加できるスポーツとして、冬場での恒例行事となつている。

大会はボウリングのピンを着ぐるみを着た小木曾貴幸分館長の始球式でスタート、参加者は入賞を目指してレーンに向かつて行った。各レーンでストライクが出ると、その都度歓声が上がると、盛り上がり続けた。子供は素直に、若者はワイルドに、女性は品良く、年配者は少し遠慮気味に、喜びを表現していた。幼児は、ボー

う音や感触を楽しんだ。つきあがった餅は、きな粉・あんこ・ごまなどを付けて皆で味わった。また、芋煮会では八幡町区民より提供された野菜や肉を、婦人部や小学校PTAの会員が前日より大鍋2つで煮込んだ。参加者はフーフー言いながらおいしそうに食べていた。



力合わせ「べったん」

上溝区 70人の本ボウリング大会

2月3日、上溝ボウリング大会がアストロポウルにて、約70人が参加して行われた。8回目となる今回の大会は、幼児から年配者まで男女を問わず幅広い年齢層が参加できるスポーツとして、冬場での恒例行事となつている。



常盤台区 一緒に 清掃ボランティア



常盤台区清掃ボランティアは、平成19年6月に子供たちの通学路を美しくする目的で会員を募集、26人の賛同を得て発足した。常盤台区から八幡町区に下る坂道と、常盤台区より鼎下山に向かう98段の階段を、毎月3日曜日朝7時より約1時間清掃している。

常盤台区民はもとより、松尾小と緑ヶ丘中へ通う小中学生や飯田長姫、下伊那農業の両校に通う高校生は、皆この坂道や階段を利用して居る。常盤台区に暮らすボランティア会員たちは、



この記事は、3月12日に急逝された上溝区広報委員の福島彰さんにより執筆されました。福島さんの誠実で温かい人柄を偲び、心よりご冥福をお祈りいたします。

子供や孫たちのために月3回の清掃活動に汗を流し勤しんでいる。代表の斉藤さんは「1年を通して道路や階段が汚れている。秋の落ち葉の季節は大変だが、朝の掃除は清々しい」と語り、後世に清掃ボランティアを残していく若い力が欲しいと常盤台区民の参加を呼び掛けている。

問い合わせ先は 代表斉藤利晴さんまで Tel 23-5259